
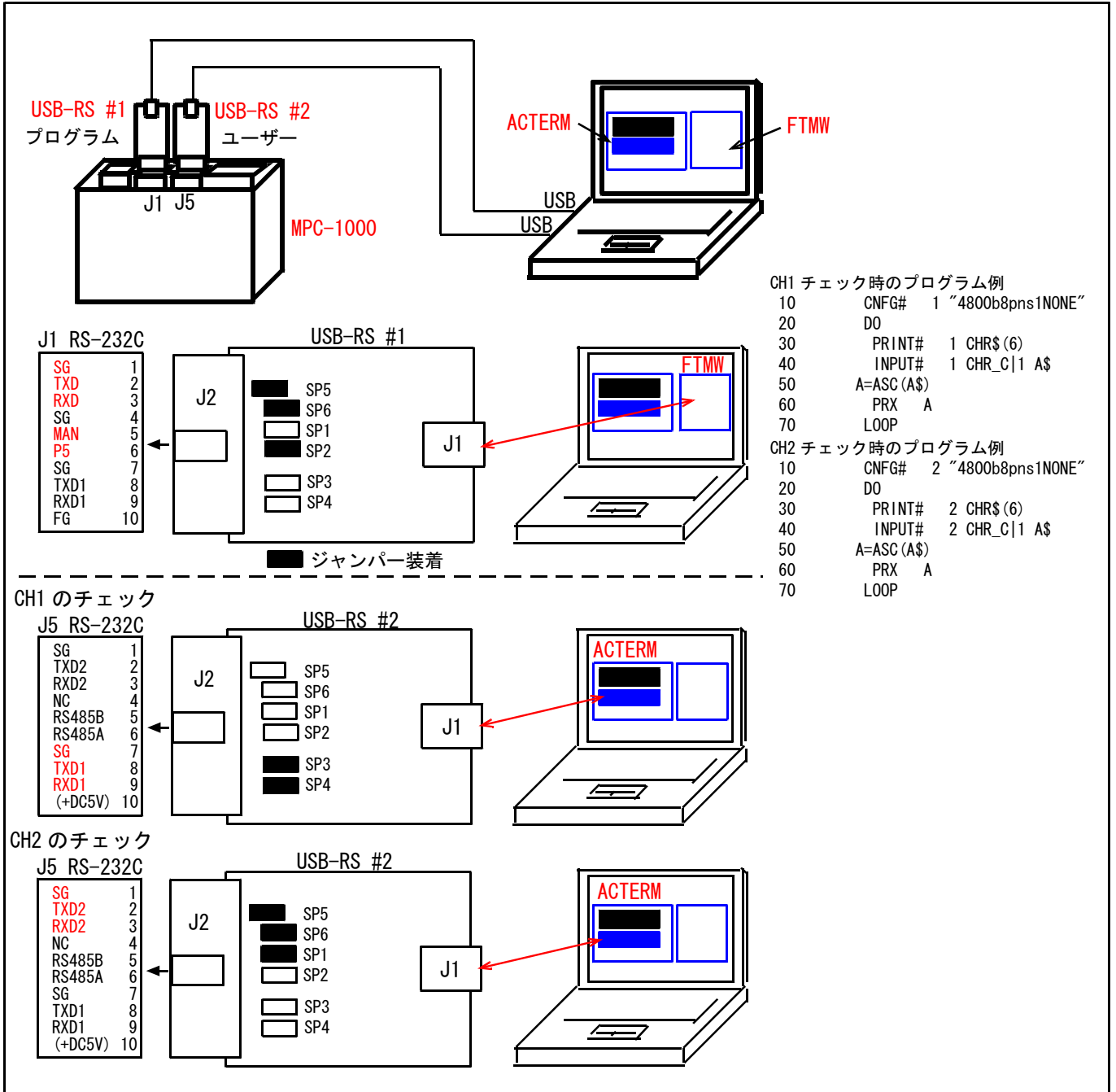


MPC-1000 RS-232Cポートの通信確認例

2010/05/13

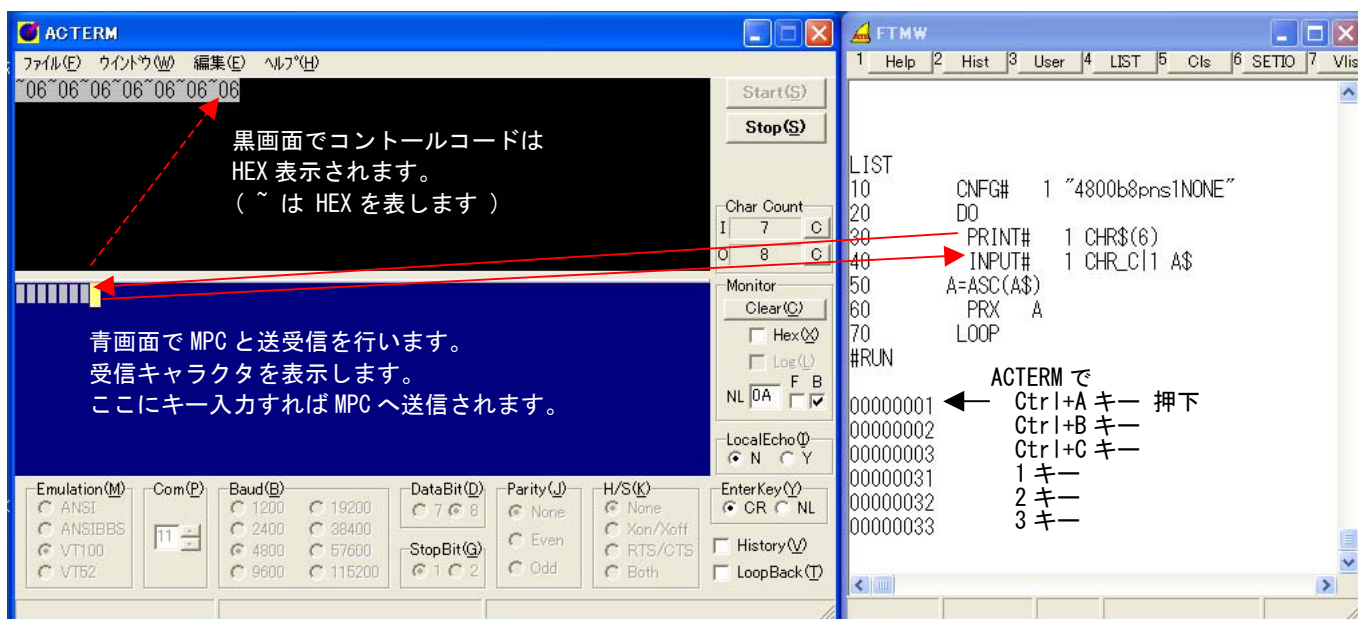
- 1台のノートパソコンに USB-RS2(または USB-RS3)を 2つ接続して、MPC-1000 の RS-232C ユーザーポートの動作確認をします。
- ユーザーポートは通信機器の代わりにターミナルソフト「ACTERM」で送受信を行います。
- ユーザーポート CH1 と CH2 の切り換えは USB-RS のショートピンの変更で行います。
- ACTERM  は FTMW のフルセットアップで ACCEL フォルダにインストールされます。

■機器構成



■パソコンの画面

ACTERM(左)と FTMW(右)を強引に並べてみました。



- ・ プログラムを実行すると MPC(FTMW 側)からパソコンへ&H6 が送信されます。ACTERM の青画面にフォーカスを移し、キー入力すると MPC に出力されます。
- ・ MPC はプログラムを実行していますが、ダイレクトコマンドでも可能です。
- ・ この例はノートパソコン 1 台で行っていますが、もちろん FTMW と ACTERM 別々のパソコン、USB-RS の代わりにインターナル RS-232C や市販 USB-RS コンバータでも ok です。